



アルゼンチン通信

第2号 2024年09月30日発行(毎月月末発行予定)

JICA シニア海外協力隊 2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル 2024年03月卒業生 鈴木功二

アルゼンチンに来てから早くも1か月以上が経過、今は、首都ブエノスアイレスから北西に約1100kmにあるサンティアゴ・デル・エステロ市に移り住んでいます。北へ向かうと、日本では温度が下がる感覚ですが、ここは南半球、赤道に近づくので一般的に温度は上がります。内陸にある為か、温度のバラツキが大きく、最高気温は1週間の中でも25℃～40℃、最低気温は9℃～24℃と大きく変わり、日中の温度差も10℃以上あります。しかし、湿度が40%以下と低いので、40℃近くでも、日本のような蒸し暑さは感じません。

人口は約23万人ですが、Santiago del Estero 州の州都で、熊本県に熊本市があるのと同じです。1550年頃に建設されたアルゼンチン最古の都市と言われているので、“アルゼンチンの京都”と言いたところですが、その頃の建物は残っておらず、州立考古学博物館に展示物があるだけです。しかし、州都なので、政府庁舎の高層ビルがあったり、サッカーやラグビーの国際試合ができるスタジアムがあったり、単なる地方都市ではありません。ブエノスアイレスでは、路上生活者を多く見かけたのですが、ここでは、ほとんど見かけません。

最も大きな特徴は、この気候だからなのか、スペインの影響なのか、シエスタ(昼休み)の習慣があることです。例えば、スーパーマーケット等の店で、朝は08:30から開店と、日本より早いのですが、13:00頃には一旦閉店、18:00頃から再び開店して22:00頃に閉店するところが多いです。昼過ぎから夕方までの暑い時間帯は、店が閉店していることもあり、人通りも減ります。店によって違うのですが、土曜日は午前中だけ、日曜日は休みの店が多いです。稼ぎ時の日曜日が休みなんて、日本ではありえませんが、ドイツ等、他の国でも珍しくはなく、安息日として、朝、教会のミサに参列して一日のんびり過ごすのもよいものです。

今回は、私の朝の通勤の様子を紹介します。徒歩で15分、列車に乗って15分、更に歩いて5分の行程です。

朝、家を出て、5月25日通りとペルー通りをまっすぐ、徒歩で、フォーラム駅に向かいます。通りの名前は、地名、人名、記念日にちなんで命名されています。同じ通りでも、主要道路を超えると名前が変わることがあります。通りの歩道は、未舗装の所があり、ゴミが落ちていたり、キレイとは言えず、犬のフンに注意して歩きます。横断歩道は一応ありますが車優先、そのかわり、信号が赤でも車が来なければ歩行者は渡ります。パン屋、雑貨屋、カフェ等は、8時前のこの時間帯でも開いています。

毎朝、ANSES(国家社会保障局)の建物の前を通るのですが、いつも50人以上の行列ができてるのが不思議な光景です。年金等を受け取る為のようですが、なぜ毎朝行列なのか?、よく理解できておらず私の研究課題です。

フォーラム駅がある鉄道(Tren Al Desarrollo、意味は“開発鉄道”)は、2016年に開業した高架鉄道で単線、車両はアルゼンチン製で“100%電気”と車体表示されているのですが、なぜか実際はディーゼル、トロッコ列車に乗っているような乗り心地で、4kmを15分掛けてゆっくり走ります。途中、スタジアムがある植物園駅に停車、その後、ドゥルセ川(意味は“甘い川”)を渡って隣の市に入りノド駅(工業団地)で降りると、駅に近接した建物が勤務先です。川は海に流れ出るのが普通と思っていましたが、市の境にもなっているこの川は、大西洋には流れ出ず、マール・チキータ(意味は“小さな海”、小さいといっても琵琶湖の軽く3倍以上、雨季はもっと大きい)という内陸湖(塩湖)につながっているだけ、いつか行ってみたいと想いながら川を眺めて通勤しています。

鈴木功二

(スペイン語版を同時配信)

【サンティアゴ・デル・エステロ市の場所】



【市内、中央のビルは、教育省と経済省】



【市内、200周年記念文化センター】



【国際試合が行われる大きなスタジアム】



【朝の通勤路風景】



【街中の典型的な開店時間表示】



- ・月曜日から金曜日の営業時間は9時から13時と18時から21時まで。
- つまり、午後13:00～18:00は一旦閉店する。
- ・土曜日は9時から13時の間だけ開店する。
- ・日曜日は何も書いてない→休み。

【朝、ANSES(国家社会保障局)前の行列】



【列車の乗車時】

